



H

ostelling

Magazine



巻頭インタビュー

大泉 洋

「水曜どうでしょう」のおかげで
旅が好きになったかも。
悔しいけど。

Hostelling Magazine × 地球の歩き方 www.arukikata.co.jp

政情安定の今がチャンス!
南米屈指の観光大国へ(コロンビア)

📍トリップアドバイザー®
ボゴタのサイクリング・ウォーキングツアー

Youth Hostel Pick up
大自然に抱かれる
特々の遊ぶ庭
カムイミントラで食と温泉を堪能
大雪山白樺荘ユースホステル

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。





www.yamazakipan.co.jp



ランチパック

LUNCH PACK



公式webサイト

ランチパック 検索

ランチパック
情報をチェック!

公式Facebookページ

www.facebook.com/lunchpack.jp



水と生きる

私たちには
100年先を考えておくことができる。

私たち人間は体の約60%が水、他の動物や植物はそれ以上。
「水」が「いのち」を輝かせている。
「いのちの未来」を考えることは、「水の未来」を考えることでもありました。
「水」は、「天と地を結ぶ大自然の営み」がもたらしてくれる恵み。
でもその自然は、何もしていないとやがて力を失ってしまいます。
私たち人間にできるのは、大自然に手を差し伸べることでした。

私たちサントリーが、森を育て水をはぐくむ活動を続ける理由もここにあります。
すべて水の恵みから生まれるサントリーの飲料。
人間が自然との幸福な関係を続けることで生まれたものたちが、
きっといい未来をつくる。
そう信じて、私たちサントリーは今日も仕事をしています。

ずっとずっと、
水と生きていけますように。

水と生きる SUNTORY

NEWS!

「水と生きる」デジタルミュージアムの
入り口はこちら。

<http://suntory.jp/MIZUTOIKIRU/>





Vision

Principle and Philosophy

Inclusivity

世界を超えて

Learning and Understanding

考えよう

Sustainability

僕らと子ども達の未来のことを

日本ユースホステル協会はユースホステルのビジョンに基づき、日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

Line up

インタビュー P02

俳優／大泉洋

「水曜どうでしょう」のおかげで
旅が好きになったかも。

悔しいけど。

Youth Hostel Pick up P08

大自然に抱かれる

カムイミントラ(神々の遊ぶ庭)で

食と温泉を堪能

大雪山白樺荘ユースホステル

Hostelling Magazine × 地球の歩き方... P12

政情安定の今がチャンス!南米屈指の観光大国へ

■アンデス山脈、アマゾン河、カリブ海
地域ごとの魅力満載!

■コロンビアを知る 5 TOPICS

トリップアドバイザー P18

耳寄り! 観光NAVI

ボゴタのサイクリング・ウォーキングツアー

教えて! 旅GIRL P20

松島むうの晴れときどき旅びより..... P21

Youth Hostel MAP P22

※本紙の情報は2018年12月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。
発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会
編集・発行人 寺島 真
TEL. (03) 5738-0546
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。
制作・印刷製本/サンメッセ株式会社

巻頭インタビュー

「水曜どうでしょう」のおかげで
旅が好きになったかも。

悔しいけど。

俳優

大泉洋

「サイコロの旅」「原付ベトナム縦断1800キロ」など、
過酷な旅の様子が話題となった、
北海道テレビの深夜番組『水曜どうでしょう』。
当時ローカルタレントとしてレギュラー出演していた大泉洋さんは、
その唯一無二なキャラクターでたちまち全国区の人気者に。
今や俳優としてドラマや映画で大活躍する存在です。
そんな大泉さんに、「どうでしょう」時代の貴重なウラ話をはじめ、
12月28日に公開される主演映画「こんな夜更けにバナナかよ」
にまつわるエピソードなどもざっくばらんに語っていただきました。

大変だけど貴重な経験ばかりだった 「どうでしょう」の思い出。

—早速ですが『水曜どうでしょう』の中で度々「アカプルコ（メキシコのリゾート地）に行きたい!」っておっしゃられてましたけど、その後実現されましたか？

してないしてない(笑)。実はアカプルコがどんなところかも知らないんだよね。なんでか、当時の僕のリゾート地といえば「アカプルコ」だったんですよね。響きですね(笑)。よく言われますよ、ディレクターに。「本当に行ってやろうか？多分何もおもしろくないぞ!」って(笑)。

—これまでのいろんな旅のロケをされていますが、特にオススメする旅先はありますか？

僕の場合、思い出にはたくさん残っているけど、どれももう一度行きたいかと聞かれるとそんなに行きたい旅ではないわけで……(笑)。だから、あまり人に旅のオススメができるかどうか……。

—たしかに過酷な旅ばかりですものね……(笑)。やっぱり「楽しい」というよりも、「大変だな」という出来事の方が印象に残っていますか？

どれも大変でしたね! バイクの旅だともう、お尻が痛いんだよね。本当に痛い。ベトナムを縦断した時はまだね、バイクがちょっと大きかったから少しはラクでしたが、日本国内だと50ccのカブだったので、過酷でしたね。

—実は個人的に『水曜どうでしょう』の大ファンなのですが、「アメリカ合衆国横断」も印象に残っています。アメリカでの旅はいかがでしたか？

アメリカは、やっぱり振り返ってみるとおもしろかったですね。車もアメ車で広がったから、移動が意外とラクだったな。1日にどれくらい走ったんだろう? 1000キロくらいだったかな。結構なスピードでずーっとまっすぐな道で走り続けられるから、2~3時間も走ると何かおもしろい名所が次々と出てくるという感じだったな。グランドキャニオンには圧倒されたし、アリゾナ隕石孔(※)では巨大なクレーターを見たり、「化石の森」があるペトリファイド・フォレスト国立公園や世界最大の鍾乳洞があるマンモスケイブ国立公園に立ち寄ったり。

—やっぱりアメリカはスケールが違いますね……見たことのない絶景に感動されている様子が印象的でした。

そうですね。まあ、そう考えると辛かった旅が多いとは言っても、じゃあ自分個人でできるかっていうと、なかなかできない経験ばかりですからね。僕はそこまで行動力はないから。貴重なことをやらせていただいたなと思いますね。アメリカ横断もそうですし、ベトナムも行ってるとし、オーストラリアもね。全部縦断しているからね(笑)。

※アリゾナ隕石孔……5万年前に隕石の衝突によってできた直径1.2km、深さ168mのクレーター

旅行に行けば 思い通りにいかないことも。 でも、それはそれとして楽しむ!

—本当にいろいろな経験をされていますよね。特に印象に残っている風景だったり、景色はありますか？

なんか今、パッと思い出したのは、「ユーコン川(アメリカのアラスカ州に流れる川)」かな。白夜に近いというか、いつまでたっても陽が暮れなくてね。だから「今って何時?」って聞いたら「もう夜11時なんだよね」って。感覚的には夕方ぐらいなんだけど。そんな中で、みんなで焚き火をしながらあれこれ語り合うっていうのは楽しかった!

—みんなで語るといえば、『水曜どうでしょう』は、みなさん同じ部屋で過ごす様子がお馴染みでしたが、「相部屋の楽しさ」みたいなのはどう感じてましたか？

まあ、本当のことを言えば、自分が選べる立場なら旅をした時に相部屋にしたいとは思ってませんでしたけど(笑)、嬉野さん(※ロケ中は主にカメラ撮影を担当する『水曜どうでしょう』のディレクター)が当時ね、「相部屋がいい!」って言い出したんですよ。「バラバラの部屋にしたら、みんなそれぞれが好きなことをしてバラバラになっちゃうじゃん。だけど同じ部屋にいるしかない!」ってなったらそこで話すしかなくなるでしょ?」って。

でも確かに、「そうするしかない」ってなると、その場を楽しむしかなくなるんですよ(笑)。その結果、一緒に過ごすことで生まれる楽しさはあった! 若い子だったら旅したいのにお金がないなら、相部屋に泊まって、そういう状況に飛び込んでみていいと思う。もう「それしかない!」っていう状況を受け入れれば、きっと楽しめちゃうんじゃないのかな。

—相部屋だからこそ生まれた名シーンもありますよね。

部屋の中だけで2週分の番組を作ったりしましたからね(笑)。歳をとったからかさすがに嬉野さんも相部屋を取らなくなったので、「どうでしょう」新作のロケに行く時は逆に僕はよく言ってるんですよ、「相部屋取らなくなったね」って。「取りませんよー、さすがに」って毎回言われちゃうけど(笑)。

「離れるのが嫌!」とってしまうくらい 美味しい思い出も……。

—大泉さんにとっての旅行の楽しみって何ですか?

「食べる」だね!僕は、食べることがとにかく好きな人だから。

—国内外のあちこちを旅した大泉さんが「これは美味しかったなー」と思った国や場所、ぜひお伺いしたいです!

美味しかったといえば、ベトナムじゃないかな。ベトナムは、本当に何を食べても美味かった!実は、あの時はどうやら、バイク旅に同行してくれていた現地のガイドさん達が美味しいお店を選んでくれていたみたいなんだよね。お昼時に街中を走っていると飲食店が山ほど並んでいるのに通り過ぎちゃうから、「腹減ってるのに何でその辺の店にいかないんだろ?」って、旅の最中は思ってたんだけどね。

—そうだったんですね!優秀なガイドさんだったんですね。

ぱっと見だと外観は他の飲食店とほとんど変わらないけど、とにかくどの店も美味かった。いつもは大体どこの国に行っても、旅の後半で「日本食が食いたい!」って思っちゃうんですよ。なのに、ベトナムは逆だった。「ベトナムのごはんが食べなくなるんだ」っていう悲しさが、帰国する時に襲ってきて、「離れるのが嫌だ!」って思っちゃうくらい何を食べても美味かった国は他になかったね。

次に旅をするなら、「子どもが喜ぶところ」 「ごはんが美味しいところ」に行きたい。

—今後行ってみたい国はありますか?

食べることが好きだから、「食」で有名なスペインのバスク地方に行ってみたい。バスク地方にあるサン・セバスティアンは「美食の聖地」とも言われる街だけど、毎年9月に「サン・セバスティアン国際映画祭」っていう映画祭が開催されるんですよ。だからその映画祭に出品する映画に出させ

ろ!とマネージャーによく言ってます(笑)。

—お仕事では世界各国を旅されていますが、プライベートで海外旅行はされますか?

悔しいけど、「どうでしょう」の経験があったことで、旅をするのが好きになりましたね(笑)。プライベートでは、独身だった頃と子どもがいない頃と、子どものいる現在とだと行き先や目的はバラバラ。今は子どもが中心だから、子どもが喜ぶところに行ってあげたいかなって思いますね。あ、でも、去年はこの歳になって初めてニューヨークに行きましたよ。友達のジャズピアニストの小曾根真さんが、ニューヨークでニューヨークフィルとコンサートをやるってということで、それを観に行っただんですね。それで、そのついでにももちろんニューヨークでプライベートを過ごしたんですけど、やっぱりニューヨークって街はおもしろかったな。

—大泉さんにとってニューヨークの魅力はどんなところにありますか?

エンターテインメントは腐るほどあるし、歩いてみたいところもいっぱいあるし、美術館なんかもすごいし……刺激がやっぱり多いですよ。「これは大人が行って楽しい街だな」って思いました。

あとは、街の人々が魅力的かな。ニューヨークの人たちって、日本より「個人」を大切にしているというか、本当にみんながみんな自由に生きているんだろうなっていう空気を感じるんですよ。だから、僕らみたいな仕事をしていると、どうしても日本にいて、人の目っていうのを気にしながら生活するんだけど、そういうのがあんまりない。それがやっぱりラクですよ。芸能人がちょっと何かあると、「ニューヨークに半年くらい勉強しに行きます」っていうのはわかるなって思いました。とはいえ、今は子どもが喜ぶところってまずは考えちゃうね。

ニューヨークで感じた 「個人」を大切にする文化。

—今回、大泉さんが主演された『こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話』を拝見させていただきました。大泉さんが演じられている難病の筋ジストロフィーを患い、体で動かせるのは首と手だけという鹿野靖明さんもアメリカへ行きたいって夢を持っていらっしかったですよね?

鹿野さんがアメリカに行きたかったのは、漠然とした憧れではなくて、鹿野さんが「障がい者だって好きに生きて良

いんだ」って考えられるきっかけを作ってくれた方に会いたって、ものすごく明確な理由があって行きたかったんじゃないのかな。実際に、自分もニューヨークに行くと感じた「個人」を大切にす文化というか、日本と比べると障がい者への考え方っていうのも、やっぱり進んでいる国だと思います。

僕が思うに日本人って、もちろん僕なんかも典型中の典型なんだけど、何かする時に自分だけ目立つてことをものすごく嫌がるでしょ？僕、今でもそうですよ。何かするっていう時に「こんなことしたら目立っちゃうよね」「調子に乗ってると思われるんじゃないか？」とかって。そういう日本的な考え方って、他の国と比べるとどうなのかな？きっと少数なのかもね。マイノリティーなんだろうなって思うよね。やっぱり、どの国に行っても「目立とうよ！」「個性出そうよ！」ってところの方が多んじゃないのかな？

僕なんか、自分のことじゃなくても子どもを育てると、子どもが何かしたら、「こんなことしてたら目立っちゃう」って考えて「それはやめようね」って言っちゃうからね。

一方で、ニューヨークとか海外に行くといかに個性を出すか、どれだけ表現するかっていう考え方だったりする。この映画もそうなんですけど、やっぱり「言うしかないんだ」って。鹿野さんは自分で自分の個性を出すしかなかったって人ですからね。

—ユースホステルは「生まれた環境や境遇で旅する機会が失われることのないように」という理念を共有した宿泊施設のネットワークで、障がいの有無に関わらずに旅ができる「Accessible Tourism」を推進しています。現時点ではまだ「世界中のすべてのユースホステルが対応している」とは言えないのですが、鹿野さんのように「旅がしたいんだ、これが普通なんだ」という価値観を目の当たりにして、ハッとさせられました。

鹿野さんとかの世界では「ノーマライゼーション」って呼ばれているけど、いかに自分たちも普通の生活をしたいかっていう。結局、映画の中でも出てくるんだけど、こういう方たちの介護は家族がするのが当たり前っていう。そういう世の中に抵抗しているっていうのかな？そういう思いが鹿野さんにはあったんだろうな。

例えばだけど、障がい者の方がいて、家族の方がいたとする。家族の方がいるにも関わらず、ヘルパーさんやボランティアの方が手伝いに来ていたって言う、「じゃあ家族は何してるの？」ってみんな言いかねないでしょ？だけど、家族がその人の面倒を看なければいけないってなったら、やっぱり家族の自由はなくなってしまうし。じゃあ、障がいのある方が結婚するってほぼ無理に近い。その人を一生、



Profile

大泉 洋

1973年4月3日出生まれ、北海道出身。

深夜番組「水曜どうでしょう」にレギュラー出演し、人気を獲得。今作でメガホンを取った前田哲監督作品『バコダテ人』(02)など、映画、ドラマに多数出演する。映画『探偵はBARにいる』(11/橋本一監督)で第24回日刊スポーツ映画大賞・石原裕次郎賞・第35回日本アカデミー賞優秀主演男優賞を受賞。『千と千尋の神隠し』(01/宮崎駿監督)など声優としての出演作品も多い。

主な映画の出演作は『ゲゲゲの鬼太郎』(07/本木克英監督)、『清須会議』(13/三谷幸喜監督)、『アイムアヒーロー』(16/佐藤信介監督)、『焼肉ドラゴン』(18/鄭義信監督)など。今後も『そらのレストラン』(19/深川栄洋監督)の公開が続く。



ヘアメイク:西岡達也(Leinwand)/スタイリスト:丸(Yolken)/フォト:小林潤次(七彩工房)
〈アイテム/プライス(税抜)/ブランド/問い合わせ先〉
コート/¥89,000/チルドレン オブ ザ ディスコダンス/スタジオ ファブワーク
カーディガン/¥58,000/フランク リーダー/マッハ55リミテッド
パンツ/¥24,000/クラネ/クラネデザイン株式会社 その他スタイリスト私物

面倒を看なければいけないって覚悟はあまりにもデカイじゃないですか。

それが、そういう面倒を看るっていう仕事かね、他にちゃんと成立して、そういう世の中がきちんと成立すれば、家族が彼のすべての面倒を看る必要はない。普通の夫婦のように生活すれば良い。……っていうのが、やっぱり完璧なノーマライゼーション。現在よりもっとノーマライゼーションが理解されていない当時、鹿野さんは「家族には家族の人生を歩んで欲しい」ということを思っていたし、自分は自分の好きに生きたかった。だから、とにかく必死でボランティアを集め続けた。とにかく1秒でもいないと困るわけだから。そこを埋めるのにとにかく必死だった、って当時鹿野さんの介護に携わっていた方はおっしゃっていましたね。「生きることに必死、自分のやりたいことに必死」という鹿野さんの個性に触れることで、影響を受け、救われていった人たちもたくさんいただろうな、と思います。

**興味本位で良いと思う。
この映画を観たら、
何か感じてくれるものが必ずあるから。**

—鹿野さんは難病の筋ジストロフィーを患っていらっしゃるって、身体を自由に動かせません。演じる上でいろいろと準備をされたんじゃないですか？

一番最初は呼吸器を付けてらっしゃる皆さんにお会いして、いろんなお話を聞かせてもらいました。正直、最初は悩んだんです。僕が障がいのある方達に「どうなんですか？」って聞くこと自体が、非常によくないことのような気がしてしまって。結局僕は(役を)演じるために聞くわけですから……。「そんなことをしていいんだろうか？」っていう葛藤すら、最初はありました。もちろん僕がいきなり病院に乗り込んであれこれ聞くわけじゃなく、今回の映画のお話をちゃんとして僕に話をしてもいいっていう方を集めてもらったということだったので、それを信じて伺いました。結果から言うとその最初の1日だけで、僕の障がいのある方へのイメージがポロポロとはがれていった感じがありましたね。皆さんがおっしゃっていたのは、映画の中で鹿野さんも言っていますが、「僕たちは普通に生活がしたいだけなんだ」ってこと。僕たち健常者は、呼吸器を付けていたり車いすに乗っている方にどうしても勝手なイメージを持ちがちだと思うんです。お話をさせていただいた皆さんがおっしゃるのは「自分じゃなくヘルパーさんに話しかける人が多い

けど、ちゃんと僕に話しかけてほしい」と。実は僕も最初は「話しかけてもいいんですか?」ってヘルパーさんの方に聞いてしまいました。でも話していくうちに、本当に“普通”なんだなと。普通に扱ってもらえないことが彼らにとっては、何よりもストレスなんだなと感じました。僕らって良くも悪くも、障がいを持っている人をどこか聖人のように勝手に思ってしまうけど、決してそんなことはない。映画にも出てくるように、男性だったら性の悩みも皆抱えているわけですし、改めて「そうだよな」と思うことばかりでした。

—最後に、この映画の魅力を教えてください。

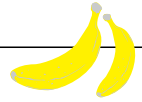
やっぱり、まずはこのタイトルですよ。『こんな夜更けにバナナかよ』って。何なの?っていうと、障がいがある人が夜中に「バナナ食わせろ」というわがまを言う話だけ

ら。もしかすると不謹慎に聞こえるかもしれませんが、障がいがあってボランティアを集めないといけないのに、どうしてここまでわがままに自由に生きられたんだろう?って鹿野さんに興味を持ったんです。けど、脚本を読み終えると、この言葉っていうのが、別にわがままではないんだよね、っていうところに至ったんです。だから、単純に手足が本当に動かなかった人が、どれだけ自由に生きようとしていたのか。どれだけの手助けがあっても、こんなに自由に振る舞える人がいたんだっていうのはおもしろいんじゃないかな。やっぱりおそろくみんな、僕だってそうだったけれど、障がいを持つ方に対して、自分が持っている固定観念があると思う。それをおもしろく破ってくれる。興味本位で良いと思うのね、最初は。興味本位でこの映画を観てもらえたら、感じてくれるものが必ずあると思うから。

第35回 大宅荘—ノンフィクション賞 & 第25回 講談社ノンフィクション賞
ダブル受賞! 読み継がれる実話を映画化!



あなたと過ごした日々は宝物でした—



12月28日(金)より 全国ロードショー

大泉 洋 さん
サイン入り

映画
こんな夜更けにバナナかよ
愛しき実話
プレスシート(非売品)

文庫
こんな夜更けにバナナかよ
筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち
(文春文庫刊)



1冊(巻)で
名様に
プレゼント!

セットで

ご応募は日本ユースホステル協会ホームページの
専用お申込みフォームから!
<http://www.jyh.or.jp/hm/>

■ 応募締切 2019年2月末日

※なお、当選発表は、商品の発送を以てかえさせていただきます。



車いす人生を
駆け抜けた男の
〈笑い〉と涙の
感動実話

体は不自由、
心は自由!

ストーリー—

札幌で暮らす鹿野靖明(大泉洋)は幼少から難病の筋ジストロフィーを患い、車いす生活。体で動かせるのは首と手だけで、介助なしでは生きられないのに病院を飛び出し、ボランティアたちと自立生活を送っていた。夜中に突然「バナナ食べたい」と言い出すワガママな彼に、医大生ボラの田中(三浦春馬)は振り回される日々。しかも恋人の美咲(高畑充希)に一目惚れした鹿野から、代わりに愛の告白まで頼まれる始末!最初は面喰らう美咲だが、鹿野やボラたちと共に時間を過ごす内に、自分に素直になること、夢を追うことの大切さを知っていく。そんなある日、鹿野が突然倒れ、命の危機を迎えてしまう…。

実在した人物・鹿野靖明(1959年~2002年)を演じるのは、同じ北海道出身の俳優・大泉洋、高畑充希、三浦春馬ほか豪華キャストが共演し、誰も観たことのない「生きる力」を持つ男と仲間たちの姿に日本中が笑いと涙で包まれる!



出演:大泉洋 高畑充希 三浦春馬 ほか
監督:前田哲 脚本:橋本裕志 音楽:高貴晴美
原作:渡辺一史
「こんな夜更けにバナナかよ 筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち」
(文春文庫刊)
© 2018映画「こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話」

この冬、最高の感動作が
誕生します。





つづきをダウンロード(無料)



Hostelling Magazine vol.15
まとめてダウンロード



トリップアドバイザー P18
耳寄り! 観光NAVI
ボゴタのサイクリング・ウォーキングツアー



インタビュー P02
俳優/大泉洋
「水曜どうでしょう」のおかげで
旅が好きになったかも。
悔しいけど。



教えて! 旅GIRL P20



Youth Hostel Pick up P08
大自然に抱かれる
カムイミントラ(神々の遊ぶ庭)で
食と温泉を堪能
大雪山白樺荘ユースホステル



松島むうの晴れときどき旅びより P21



Hostelling Magazine x 地球の歩き方... P12
政情安定の今がチャンス!南米屈指の観光大国へ
■アンデス山脈、アマゾン河、カリブ海
地域ごとの魅力満載!
■コロンビアを知る5 TOPICS



Youth Hostel MAP P22